

特集② 北野の谷戸放棄水田の自然環境

特集②にあたって

菊一 敦子

(トトロのふるさと財団 調査委員会)

キーワード: 復田 ; 放棄水田 ; 埋土種子 ; 水生生物

2007年より行っている北野の谷戸の植物相の調査を継続して行った。耕作放棄地として40年近く放置された谷戸の植生遷移を把握するために、地下水位と植生との関係や、耕起や草刈りが植生に与える影響を調査した。様々な条件が揃ってはじめて発芽する埋土種子という存在を目の当たりにし、北野の谷戸の植物の多様性の高さを改めて確認した。

本特集は継続している調査結果をまとめたものである。北野の谷戸の放棄水田の植生について、地下水位・草刈り・復田の影響について深澤が報告する。北川は実験田んぼから出現した埋土種子の調査結果を述べる。

また、北野の谷戸で水田として利用していた当時、当たり前のように見ることができた生物として、地権者の方々からは、ホタルやアカハライモリをあげられることもあり、その復元を目指していくことも視野に入れたいということから水生生物の調査を行った。水生生物調査には所沢源流の会のメンバーが協力し、貴重なデータを提供していただいた。実験水田の調査結果とあわせて、関口が北野の谷戸の水生生物を紹介する。さらにまとめとして今後の復田方針について関口が考察する。

2009年度は7月と12月に2度、地元の方々と「北野のつどい」を開催し、財団が調査報告とともに、生物多様性豊かな水田の復元を目指した今後の管理方針の提案を行った。つどいという意見交換の機会を通して、地元の方々から当時の水田の様子や貴重なご意見をいただいた。

12月には田んぼ復元に向けて、地権者の方のご指導のもと畦づくりの作業を開始し、以前の水田の景観が蘇りつつある。

2007年以来、継続的な調査のために谷戸に立ち入ることを快諾し、協力して下さった地権者の方々に感謝を申しあげたい。

